

北太平洋溯河性魚類委員会第 24 回年次会議が開催されました

釜山（韓国）、2016 年 5 月 20 日

北太平洋溯河性魚類委員会（NPAFC）の第 24 回年次会議が 2016 年 5 月 16 日から 20 日まで韓国の釜山で開催されました。

NPAFC は、北太平洋及びその隣接水域における太平洋さけ・ます類及びスチールヘッドの保全を推進する国際機関です。取締活動及び科学調査の協力・調整の場として機能しています。北太平洋におけるさけ・ます漁獲の大部分は、NPAFC 締約国（カナダ、日本、韓国、ロシア及び米国）由来の資源です。

委員会の年次会議では、北太平洋公海の NPAFC 条約水域におけるさけ・ます類及びスチールヘッドに関する問題を議論するため、全体会合及び 3 つの常設小委員会（取締小委員会、科学調査統計小委員会及び財政運営小委員会）が開催されました。

委員会は、モーリス和加子氏（NPAFC 元総務官）に 2016 年度 NPAFC 賞を授与しました。本賞は、モーリス和加子氏の長年に亘る委員会運営への貢献を評価して授与されました。条約水域における IUU（違法、無規制、無報告）漁業の探知を目的とした、NPAFC 締約国の取締当局間での効果的な情報共有と共同取締推進に関する氏の献身的な業績が評価されました。モーリス和加子氏の尽力及び卓越した指導力によって、委員会の締約国による国際協力は大きく前進しました。

委員会の取締分野の会議では、NPAFC 締約国の取締当局間で多国間共同取締と定期的な情報交換について検討されました。日本の空港から離陸するカナダ及び米国の漁業取締航空機による監視活動は取締効果を最大化することに役立っています。また、米国と中国の二国間協定に基づき、中国国境警備隊当局者が米国沿岸警備隊の艦船に同乗し、船舶による監視活動の効率をより促進しました。

多国間共同取締の努力の結果、NPAFC 締約国取締当局の 2015 年の公海流し網及び IUU 漁業の確認はありませんでした。2015 年の締約国による共同取締は、取締船で 100 日以上、航空機で 400 時間以上実施され、NPAFC 条約水域の広範囲で監視活動が行われました。500 隻以上の漁船が確認されましたが、違法漁業を行うものは認められませんでした。何隻もの運搬船の検査を行いました。公海で漁獲したさけ・ますは認められませんでした。このことから、高いレベルの協力、監視活動、検査の努力が、IUU 漁業の強い抑止力となっていることが確認されました。

NPAFC の科学調査分野の会議では、締約国の主要なさけ・ます研究者が各締約国からの情報を元に、商業漁獲統計について検討しました。2015 年の北太平洋全域における暫定的さけ・ます漁獲量は、104 万トン（5.07 億尾）でした。カラフトマスが全商業漁獲の最も大きな割合（重量ベースで 44%）を占め、次いでシロザケ（34%）、ベニザケ（18%）と続きました。ギンザケは商業漁獲量の 3%、マスノスケは 1%、サクラマス及びスチールヘッドはそれぞれ 1%未満でした。

2016 年には、アラスカ湾、ベーリング海、北西及び中央北太平洋、オホーツク海でさけ・ます類の研究調査が計画されています。研究者らは、海洋におけるさけ・ます類の魚種別豊度、回遊、分布などを調べる予定です。

今年も **International Year of the Salmon (IYS: 国際サーモン年)** についての準備が引き続き行われました。IYS とは、大西洋及び太平洋において気候変動がさけ・ます類に与える影響を理解することに集中した国際科学研究です。この取組は、公海におけるさけ・ます類の分布、豊度に影響する要因に対する理解を深める為の共同調査を行うという、各国にとって類なき機会です。IYS 終了後は、分布域における健全な資源を維持する為、さけ・ます類が直面する環境問題の把握、及びそれらが及ぼす影響の軽減策に対する新しい技術や分析方法が構築されることが期待されます。

2016-2020 NPAFC 科学計画が今会議で承認されました。この科学計画は、北太平洋における溯河性魚類の分布及び豊度に影響する生態学的メカニズム、及び北太平洋生態系における気候変動の影響に関するより良い科学情報を提供する新たな国際共同研究の重要性を認識するものです。科学計画の主要目標として、IYS プログラムと同様、季候変動下における太平洋さけ・ます類の生産性の変動に関する理解を深めることが掲げられています。

この科学計画における共同研究の取組は、仮説検証に用いる現存データの収集・統合と、調査船、リモート・センシング、モデル、野外及び研究室での研究、遡及的分析を用いた、海洋における生態学的モニタリング・プログラムの統合を含みます。共同研究による科学的成果は、気候変動下における太平洋さけ・ます類の生産性変動に関する情報不足を補い、また、他の国際組織と共同し、IYS の取組に大いに貢献することが期待されます。また、新しい科学情報は、条約水域での IUU 漁業からさけ・ます類を保護する NPAFC 締約国による共同取締にも効果的であると期待されます。

5 日に渡る委員会は、カナダがビクトリア（ブリティッシュコロンビア州、カナダ）における 2017 年年次会議に締約国を招待して、閉会しました。この年次会議は委員会 25 周年記念と同時に行われます。

— 了 —

連絡先：ウラジミール・ラドチェンコ NPAFC 事務局長

電 話：+1-604-775-5550

Email：secretariat@npafc.org

ウェブサイト：www.npafc.org

NPAFC について

NPAFC は北太平洋とその隣接水域におけるさけ・ます（シロザケ、ギンザケ、カラフトマス、ベニザケ、マスノスケ及びサクラマス）とスチールヘッドトラウトの保存を推進する国際組織であり、科学研究と取締活動の協力・調整の場として機能しています。NPAFC の条約水域は北太平洋、ベーリング海やオホーツク海の北緯 33° 以北の公海です。NPAFC の締約国は、カナダ、日本、韓国、ロシア連邦及び米国です。